

全国学力学習状況調査の分析

国語の成果と課題について

【成果】

- A:「情報の扱い方に関する事項」において、問題文の中から(1)情報の収集・(2)情報の整理・活用をすることができています。
- B:「書くこと」において、思考力(目的や相手、構成、根拠などを考える力)・判断力(どの情報を使い、どうまとめるか判断する力)・表現力(文章で適切に表す力(構成・語句・文体など))が身についています。
- C:「記述式問題」において、知識・技能(文法や語彙、表現の基礎知識)、思考力・判断力(情報や本文をもとに考えをまとめる力)、表現力(自分の考えを筋道立てて適切に書く力)が身についています。

【課題】

- A:「児童が文章や資料を読んで、内容を理解・解釈・判断し、自分の考えを形成・発信する」ことに課題があります。
- 資料・図表・文章をただ読むだけでなく、「何のために読むか(目的)」「誰に向かって読むか(相手)」
「どんな情報が必要か(課題)」を意識することを大切にします。
- 文章構成(段落、接続語、時系列・因果関係)や登場人物・場面の変化に注目して読むことを意識させます。
- 読んだあとに、「自分の考え」「感じたこと」「疑問に思ったこと」を整理する習慣をもたせます。
- 異なる資料・文章(例えば説明文+図表、物語+新聞記事など)を読み比べる活動を取り入れます。
- 日常的な読書活動・新聞・図鑑・インターネット等を活用し、「読む」経験を豊かにします。
- B:「話すこと・聞くこと」において、知識・技能(敬語・語彙・話の構成などの基本知識)、思考力・判断力(聞いた情報から要点を整理・判断する力)、表現力(相手や目的に応じた話し方・言葉選び)に課題があります。
- 「話すこと・聞くこと」の力は、目的意識 × 構成力 × 対話力の3つを意識した日常的な言語活動の積み重ねで育つと言われています。普段の学習から、目的意識(話す・聞く前に「この活動の目的は〇〇」と確認)を明確にし、構成を支える支援(話す前にメモ・構成メモをつくる。話す順番を視覚化)をさせます。そして、相互交流(発表後に質問・感想を交わす時間)と振り返り(話し方において工夫できたこと)を子ども自身に書かせる)の時間を確保します。

算数の成果と課題について

【成果】

A : 「A 数と計算」の領域について、知識・技能（四則計算の正確さ・速さ、数や単位の基本的理解）、思考力・判断力（計算の仕方を選んだり、数の関係を考えたりする力）、表現力（筆算の途中過程や数式で表す力）が身につけています。

【課題】

A : 「図形」の領域について、思考力（図形の性質や関係をもとに、形の特徴を考えたり推論したりする）、判断力（図形の構成や性質を利用して、問題を解決する方法を選ぶ）、表現力（自分の考えを、式・言葉・図・線・数などで筋道立てて説明する）に課題があります。

→図形を扱う単元では、「どの部分が等しい？」「どんな性質を使える？」など問いかけることで「見方・考え方を養う」力を育てます。考えたことを図・線・記号で示す練習をしたり、「どうしてそう言えるの？」と理由を言葉で説明したりする練習を取り入れます。また、1つの問題を違う視点（角度・線対称・合同など）から考えるなどの複数の見方を比較する活動を取り入れます。

B : 「記述式」の問題において、児童が自分の考えや理由を、式・言葉・図などで書いて表すことに課題があります。

→普段の学習から、「なぜそう思ったの？」「どうやって考えたの？」と説明させる時間を設けることで、考え方を言語化する力をつけさせる活動を取り入れます。図や数、式を使って筋道立てて説明する練習をする時間を確保することで、根拠を明確にする力を身につけさせます。友達の考えと比べたり、話し合っただけで違いを説明したりすることで、他者に伝える力を育みます。

C : 「データの活用」の領域において、表やグラフなどのデータを読み取り、整理・分析し、考えをまとめて活用することに課題があります。

→データを読み取り、整理・分析し、自分の考えを説明する力を育てるためには、単なる計算だけでなく、生活のデータやグラフを使って、思考→判断→表現の流れを身につけさせることが大切と言われています。学習活動の中で生活に身近なデータを扱うことで、興味や実感を持たせることで、分析や説明がしやすいように工夫します。棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ・表などを使った読み取り問題を多く経験させたり、「どの値が一番大きい？」「何が変化している？」「平均はどれくらい？」などの焦点化した質問をしたりすることで、データを「読む力」をつける学習活動を確保します。

D : 「変化と関係」の領域において、数量の変化や量の関係に着目して、問題を整理・分析し、考えをまとめることに課題があります。

→「変化と関係」を扱う単元では、生活に身近な事例を使うことで児童がイメージしやすく、変化や関係が理解しやすい問題を扱うように工夫します。「読む → 整理する → 説明する」の流れを習慣化することで思考の手順を身につける学習時間を確保します。また、学習中の間違いや考え違いも学びにするような手立てを講じます。なぜ違うのかを振り返ることで理解が深まるように支援します。

児童質問について

【全体を通して】

本校は例年「友だち関係に満足している」「学習中の友達との意見交換が楽しい」と回答する児童が多くいますが、今年度もそう回答する児童が多く、安心して学習することができる環境が学校全体で整っていると考えられます。また、主体的な学び（学ぶ目的を理解し、自分から学ぼうとする。自分で考えたり、工夫したりしながら学習に取り組む。）、対話的な学び（友達や先生、地域の人などと意見を交流し、考えを広げたり深めたりする。）、深い学び（習ったことをもとに考えをまとめ、他の場面でも活かせるようにする。知識や技能を結び付けて理解を深める。）に関しても、前向きに回答する児童が今年も多くいました。これからも学力の基盤を支えている要因としての「学校での基本的な生活習慣・学習習慣」と「家庭での家庭学習」の確立と習慣化に加え、「自分で学習を調整する力」の向上や「ICT 機器の活用」についても全学年で取り組んでいく必要があることが児童質問紙から分かりました。

【良いところ】

- ・「学習習慣」に関する問いでは、全国や県平均と比較すると上回っており、学校や家庭でも学習に真摯に向き合う児童が多くいることが分かりました。引き続き、学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの自ら学ぶ力（学習意欲）を育てる活動に取り組んでいきます。
- ・「理科に関する意識」や「理科の学習活動」に関する問いでは、多くの児童が前向き回答をしており、本校での理科の学習活動や、家庭や地域における理科的な活動が児童への興味・関心を引き立てていることが分かりました。引き続き、観察・実験などの体験的な学習、探究的に考える活動（自分で予想・考察するなど）、友達との話し合いやまとめの活動を充実させることに努めてまいります。
- ・「向社会性」に関する問いでは、多くの児童が多くの項目で前向きな回答をしていました。他者を思いやり、社会の一員として協力・貢献したりしようとする態度や行動が身につけていることがわかりました。引き続き、共感的人間関係を基盤に児童同士の信頼関係を深めることができるように努めていきます。

【課題】

- ・ICT 機器（タブレット端末）を学習に利用している時間を調査する項目では、本校の活用時間が比較的短いことが分かりました。学校内の学習活動に加えて、家庭学習においても ICT 機器（タブレット端末）を利用する時間が有意義なものとなる活用方法を、今後も学校や家庭の協力のもと実践していきます。
- ・国語や算数を学習することが好きと回答した割合が全国や県平均と比較すると下回っていました。学校でも学ぶことの楽しさやおもしろさを伝えていきます。学ぶ意欲付けにつながるような校内掲示や、授業時間以外の取り組みも模索していきます。ご家庭でも家庭学習等の取り組みを見ていただき、励ましの声かけ等をよろしくお願いします。
- ・「読書等」に関する調査から、本校では「日常的に文章や本に親しむ習慣がない」児童が多くいることが分かりました。小学校段階での読書習慣は、学力だけでなく、思考力や想像力、自己表現力、さらには向社会性にも影響するとも言われています。教室図書や図書室をさらに活用することで、「読書は特別な時間」ではなく、生活のルーティンにできるように努めてまいります。デジタル活用もすることで、読書という活動が児童にとってさらに身近に感じられるようにしていきます。